

2006年度東北大学法科大学院入学試験

試験科目名：刑法（50分）

金に困っていたXとYは、YがA宅に侵入して金銭を窃取すること、XはA宅から約150メートル離れた路上に自動車で待機し、金銭を盗み出してきたYを当該自動車に乗せて現場から逃走することを内容とする計画を立てた。

ある休日の午後、Aが外出することを知ったXとYは計画を実行することを決意し、計画通り、Yが、窃盗の目的で、Aの留守宅に侵入した。Yが、1階の居間にあった箆笥を物色していたところ、Aが外出先から帰宅し、箆笥を物色していたYを発見し、「何をしているんだ。」と大きな声を出した。Aの帰宅に驚いたYは、Aの傍らをすり抜け、その場から逃走しようとしたが、Aは「待て、泥棒。」と言って、Yの肩を強くつかんだ。逃走しようとしたYがAの手を振り払ったところ、Aは足を滑らせ、頭を壁に強く打ちつけて、うずくまったために、それを見たYは、走って玄関から道路に飛び出し、A宅から約150メートル離れた路上に待機していたXの自動車の方に走りより、急いで乗った。Xは、Yの乗車を確認後、自動車を急発進させ、その場を去った。車中において、Yが、Xに対して、金銭を盗み出すことができなかった経緯について打ち明けたところ、Xは「そういうこともあるさ。気にするな。」と言った。

XとYの罪責について論じなさい。